

折に触れ 四字熟語

NO. 63 『寒巖枯木』 かんがん こぼく

< 意味 > 世俗に超然とした悟りの境地のたとえ。枯れた木と冷たい岩の意から。仏教、特に禅宗で「枯木」「寒巖」を情念を滅却した悟りの境域にたとえる。

また、情味がなく冷淡で取っつきにくい態度、性質などのたとえに用いられることもある。

語 釈：「巖」はいわお。高く大きな石。「寒巖」で寒々とした冬の岩。「枯木心」は無心になることを言い、「枯木堂」は無心に坐禅をするところの意味で僧堂を言います。

一 言： 寒シリーズ その1
「枯木寒巖」ともいいます。

参照文献：三省堂「四字熟語辞典」 岩波書店「四字熟語辞典」